第５Ｂ分科会　　研究課題　「教職員の専門性に関する課題」
研究主題　「コミュニティ・スクールの組織づくりと協力体制の構築」～地域人材との連携・協働を目指して～

宮崎支会　宮崎市立田野中学校　本部圭一郎

１　主題設定の理由

学習指導要領の柱の一つである「社会に開かれた教育課程」を実践するために、「地域と共にある学校づくり」を念頭に、将来、社会を担う子どもたちに求められる資質や能力を明確にし、それを学校と保護者・地域等が共有したうえで、お互いにこれまで以上に連携・協働しながら学校教育を通じてよりよい社会を実現することが必要だと言われている。

本市においても令和２年度を皮切りに、「学校を核とした地域の創生」を目指し、コミュニティ・スクールの取組を充実させ、「地域と共にある学校づくり」を推進・加速させるために、学校運営協議会の創設が市教育委員会企画総務課の指導・支援のもと年次的行われている。

そこで、学校運営協議会で承認が義務付けられている自校の「学校経営方針」を踏まえ、当該中学校区における地域社会とのつながりや地域人材の活用を推進させていくための熟議に対し、教頭がどのように関わればよいかを明らかにするため、本主題を設定した。

２　研究のねらい

学校運営協議会において熟議を活性化させるために、創設期における教頭の関わりはどのように在ればよいかを究明する。

３　研究の概要と成果

⑴　「創設１年目の関わり」について

①　取組（加納中校区）

加納中地区では、１年目ということもあり、どのようなコミュニティ・スクールを目指すのか、その組織の構成についてはどのようにあるべきかについての検討を行った。

そこで、コミュニティ・スクールの推進目標を「新たな時代を生き抜く力を育むため、加納中学校区の豊かな教育資源を生かし、ビジョンの共有化と地域の共同体制整備を図り、地域とともにある学校づくりを推進する」とし、これまで学校運営に関わってきていただいた学校関係者評価委員を基盤として委員の人選を行った。

また、初年度でもあることから、部会の編成等は行わず、学校運営の状況を実際に見ていただきながら、その課題点等について協議をしていく一年とした。

コロナ禍で、初回が１０月の開催となったが、学校の運営方針等について協議するとともに、地域や学校、関係機関のつながりを強化していくことで、子どもたちの成長を支えていくことの重要性を確認する会となった。

体育大会や運動会、参観日等の行事を参観した委員の方々から、様々なご意見をいただくことができた。

②　教頭の関わり

ア　事務局として、学校間、委員との連絡調整や協議会の資料作成を行った。

イ　協議会当日は、教頭も参加し、司会及び学校評価についての説明等を行った。

⑵　「創設２年目の関わり」について

①　取組（田野中校区）

２年目の本協議会での熟議においては、地域人材との連携・協働を具体的に推進するための取組にはどのようなものがあるかを、検討していく必要がある。その際、次のような視点から検討していった。

○　単年度の取組か、継続的に実施する取組か。
○　各校単位での取組か、中学校区での取組か。
○　年間１回の取組か、複数回の取組か。
○　単学年の取組か、全校生徒の取組か。

いずれにしても、持続可能な取組を模索していくことが賢明である。

本校区は「教育連携部会」「学校支援部会」「地域貢献部会」の三部会を組織しており、各部会がもつ特徴を生かし、２学期以降から実践できる取組を決定していくこととした。

② 教頭の関わり（２部会を紹介）

ア 学校支援部会に属する田野中においては、第１学年での職業講話を企画する際に、以下の関わりをもった。

○ 講師４名を決定するにあたり、聴きたい職業分野のニーズを当該学年主任に依頼

○ リサーチした結果をもとに、田野町商工会に人材発掘を依頼

○ 内諾を得た講師の個人情報（住所・氏名・年齢・連絡先等）を受理し、当該学年主任に報告

イ 地域貢献部会に属する七野小においては、学校内のみで行っていたみどりの少年団の募金活動を地域へと広げる取組とするために以下の関りをもった。

○ 田野総合文化祭実行委員会に参加

○ みどりの少年団活動状況の説明および田野総合文化祭への参加を具申

○ 田野総合文化祭での特設ブース設置の了承を得て、募金活動を実施

⑶ 「創設３年目の関わり」について

① 取組（清武中校区）

各学校長の作成する学校運営の基本方針について協議し、承認する。

また、教育連携部会、学校支援部会、地域貢献部会の３つの部会を編成し、それぞれの部会が学校運営の支援となるように企画・活動を行う。

ア 教育連携部会

○ 学校と家庭の教育連携及び幼保・小・中の一貫性・継続性の充実に向けた協議を行う。

・ 家庭・地域への啓発：「虹色子育て合言葉の作成」等

イ 学校支援部会

○ 学校における教育支援の一層の充実に向けた協議を行う。

・ 学校支援体制の充実：「地域人材の発掘」「人材活用事業」等

ウ 地域貢献部会

○ 地域貢献への環境づくりの充実に向けた協議を行う。

・ まちづくり協議会との連携：「あいさつ運動」「ボランティア活動（清武かるた大会）」

② 教頭の関わり

ア 会議開催日程に関する各学校間の連絡調整を行う。

イ 学校運営協議会委員の会議出席に関する日程調整を行う。

ウ 各部会における活動計画や活動内容の協議について、学校間の連絡調整を行う。

エ 各部会の活動実践の際にコーディネートを行う。

(4) 成果

① スタートは遅れたものの、協議会の基盤を築くことはできた。また、学校行事を参観していただき、学校の教育活動への貴重な示唆をいただくことができた。

② 無理なく持続可能な取組、また学校と地域が Win-Win となる取組を模索し、定着していく兆しが見え始めてきた。

③ 全体会、各部会ともに活動内容が定着してきており、学校運営支援や児童生徒の育成に貢献できる組織となってきている。

４ 今後の課題

(1) 効果的な協議会の運営に向けてどのような組織づくりをすればよいか、他校の取組について情報収集をしながら検討していく必要がある。

(2) コロナ禍で、学校が地域に、地域が学校に参画する機会がもてない。収束したうえで可能な内容や収束前でも可能な内容を検討したい。

(3) まだ学校運営や教職員の任用に関して意見を述べたりすることのできるような組織とはなっていないので、今後更に組織の充実を図ることが必要である。

(4) 事務局を学校に設置するのではなく、当該校区の行政に一組織として独立させることで、持続可能な活動につながり、地域の子どもは地域で育てる土壌が構築されるのではないか。